

# 東部菱肥会実務者研修会 in 川崎

去る6月28日～29日に東部菱肥会実務者研修会が川崎市にて行われた。1日目は座学研修にて「与信管理の基礎知識について」株式会社東京商工リサーチの松永情報部長に、弊社原料部山本次長より「海外肥料原料の情勢について」講演頂いた。当会理事長である株式会社ネイグル新潟の五十嵐社長より昨年に引き続き実務者の研鑽機会を活発にしたいと開会の挨拶がなされた。当社の三宅社長からは昨今の肥料業界の情勢やコメに関する動きが披露された。当誌では与信管理の基礎知識と味の素株式会社の川崎工場見学を中心にレポートする。

## 「最近の企業倒産と対策」(株) 東京商工リサーチ松永伸也情報部長

国内における企業倒産数は年間1万件を割っている。昨年度は暦年ベースで8,446件となっており、2017年度1～5月では3,561件とこれも昨年ベースを下回っている。また、農業関連の倒産は少なく、昨年度は48件で1997年からの統計を見ると年間70件以上はなく50件前後で推移している。ただし、この倒産件数については負債額が1千万円以上しかデータにないため1千万円以下の負債が多い個人農家を含めるともっと数は多いと考えられる。また、地域的には北海道や九州が多く調査会社は北海道を景気のパロメーターと見ている会社が多い。復興支援に関する補助金が減少していく中で今後は東北地方が厳しい局面を迎えると見られている。企業が出資や自ら経営する農業法人が増えてきているが赤字経営が多く事業の撤退も見受けられて来た。企業倒産については金融円滑化法終了後も金融機関は貸付条件の変更に応じているため大きな増加は考えにくいものの、金利が上昇した際には現状よりも緩やかな増加が懸念されるとしている。与信管理の基礎知識として貸倒を発生させないために危ない会社の見分け方として冷静な観察眼を持ち企業を見ること、異常値を見抜く洞察力が必要と示された。定量要因として取引先より決算書が入手できる場合は、まず初めての取引として直近最低2～3年の決算書を入手し分析することを勧めており、単年度の決算書だけの判断は避けた方が良いとのアドバイスがあった。

## 味の素(株)川崎工場 乾燥菌体肥料工場見学

年間4万人を超える工場見学者数を誇る味の素株式会社川崎工場。主力の「味の素」、「ほんだし」や「Cook Do」製造工程を見学するコースではなく、肥料業界にゆかりがある施設内より産出される乾燥菌体肥料の製造工程である特別「環境コース」を見学することが出来た。食品工場である同工場の排水処理設備から産出される乾燥菌は、当社取り扱いの肥料メーカーはじめ幅広く有機質原料用として販売されている。

また、脱脂大豆を分解した際、副生するヒューマスと称する分解かすは、家畜の敷床材や、燃焼カロリーが高い特徴を活かしてバイオマス発電所の燃料として有効利用されている。東京ドーム7個分の敷地面積を持つ同工場は日量約4,200トン(25mプール換算で約13杯分に相当)の排水を集積し工場内で微生物を活用した排水設備で処理する。また、同社は環境基準を国内基準ではなく世界でも厳しいベトナム基準(窒素5mg/L以下)で多摩川に排出するよう徹底管理している。食品工場の取組を知らなかった参加者からは驚きと親密感が沸いた見学会となったようだ。



また、脱脂大豆を分解した際、副生するヒューマスと称する分解かすは、家畜の敷床材や、燃焼カロリーが高い特徴を活かしてバイオマス発電所の燃料として有効利用されている。東京ドーム7個分の敷地面積を持つ同工場は日量約4,200トン(25mプール換算で約13杯分に相当)の排水を集積し工場内で微生物を活用した排水設備で処理する。また、同社は環境基準を国内基準ではなく世界でも厳しいベトナム基準(窒素5mg/L以下)で多摩川に排出するよう徹底管理している。食品工場の取組を知らなかった参加者からは驚きと親密感が沸いた見学会となったようだ。

# 創立70周年を迎えて ご寄稿

日栄商事株式会社 中村社長

この度、MACジャーナルに弊社の紹介の機会を頂き感謝申し上げます。本年の8月をもって創立70周年を迎える弊社は、中村酒造を営む先々代会長の中村栄俊が戦後の日本の再建のために決意した2つの想いにその端を発します。1つは文化国家再建のため日本が世界に誇る文化遺産、古美術品を蒐集し金沢市に美術館をつくることでした。その想いは金沢市立中村記念美術館として結実し、貴重な文化遺産・美の世界を後世に引き継いでいます。もう1つは日本が経済国家として発展していくため商事会社を設立し、人々の豊かな生活を実現することでした。GHQの財閥解体で閉鎖された三菱商事株式会社金沢支店の農水産関係の方々と設立された弊社は北陸でしっかり根を下ろすことが出来ました。

事業内容は肥料・農薬・資材・生産物等の農業関連資材の卸売を行う農事部門、空調給排水設備工事の設計施工・機器販売・保守点検を行う空調部門を柱としています。今期の売上目標は60億円、農事部門と空調部門はおおよそ6対4の割合です。2008年のリーマンショックや会長の急逝など厳しい時代を経ながら、農事部門・空調部門の異業種の連携を深化させ、この10年間はお客様への継続的な提案を地道に積み重ねて参りました。関連会社の北陸スカイテック株式会社は産業用無人ヘリコプターの教習・販売・保守そして防除業務など農作業のアウトソーシングの役割を積極的に担って参りました。創立25年をむかえ、肥料・農薬散布のべ防除面積は北陸3県で年間約6.5万ヘクタールの規模にまで実績を積み重ねて参りました。今後はドローン等の新しい技術もとり入れ、防除業務等に更に広がりを持たせていきたいと考えています。



日栄商事(株)・北陸スカイテック(株) 慰安会  
日栄商事株式会社 70周年記念パーティー  
2017年6月17日

また今年の2月に全酒類卸免許の交付を受けることが出来ました。今まで以上に中村酒造との連携を深め、農業場面での提案に広がりを持たせることが目的です。昔から「酒造り」は「米作り」とも言われます。まだ緒についたばかりで実績ありませんが、新しい分野でいろいろな取り組みをお客様とともにじっくりと行いたいと考えています。TPP、農業改革など農業を取り巻く環境が大きな変化を迎えています。この変化は従来の価値観や考え方そして商習慣すら飲み込み、全く異質なものを産み出す可能性すら否定できないような気がします。今まで以上に先を見透すことが困難で進路も不確かな時代です。お客様・お取引様・役職員 多くの方が集い共に持続的な成長を目指し、地域社会への貢献を志す企業であり続けることをお誓い申し上げ、感謝の気持ちとともに筆を置かせて頂きたいと思っております。

九州北部の豪雨災害に遭われました方々に、心よりお見舞い申し上げます。局地的な大雨も各所で発生しており、今後の天候も心配されます。暑さも厳しくなってきましたので、体調を崩されないようにお気を付けください。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>